

氏 名	所 属
家田 仁	東京大学大学院 工学系研究科 教授

■ご意見の内容(1/1)

1. 広域地方計画と地方社重の関係について

○関東独自の理念として「対流型首都圏」というキーワードがあるが、全国計画の内容は当然のこととして、さらに関東独自の考え方を重点目標にしていかないのか。例えば、関東独自目標と全国目標のマトリックス型とすること、または目標の1つとして重点化していくような考え方もあるだろう。

○関東の独自性は計画の中で明瞭に出した方がよいだろう。従来の社重としての書き方は官公庁にとっては分かりやすいが、一般には総論よりは個別の考えを出した方がよい。社重はなくなることはないだろうが広域計画の必要性はこれからも問われていく。従って、首都圏の色を明確に出して整理していくことが望ましい。

○社重の具体的な事業と広域計画のコアプログラムとのつながりが明確となるようにして欲しい。

2. 今後の災害事業対策の考え方について

○鬼怒川豪雨災害をきっかけに今後の河川事業も含めた防災事業への投資をどのように考えていくか、拡大なのかこれまで通りなのか、選択を迫られることとなることを頭に入れておく必要がある。結論は現時点では出ないものは、そのような検討を今後行うことを記載していくべき。防災に関しても、全国計画にはない関東独自の表現を入れた方がよいだろう。